

国際ロータリー第2580地区  
石垣ロータリークラブ週報

2025年(令和7年) 3月 12日(水) 第27回例会(通算3044回) Rotary Club of Ishigaki



2024-25年度RI会長テーマ  
RI会長：ステファニー・アーチック

2024-25年度 ◆クラブ会長テーマ◆  
「親睦と友愛の絆で広げる奉仕」

会長：宮城早人 副会長：今西敦之

幹事：新里裕樹 直前会長：前原博一

副幹事：木下省三 会場監督(SAA) 委員長：黒島勝

◎水と衛星月間

今月のロータリーレート 1\$¥150

石川 彌八郎 地区ガバナー

テーマ：隔たりを取り除き、“ご縁”を大切に

会員職場紹介

陸運総合株式会社



日頃より、弊社をご愛顧頂きありがとうございます。

陸運総合株式会社は、「陸で動く物は全て扱い地域に貢献したい」という思いで昭和48年に創業し、今年10月8日に創立52年を迎えます。

これもひとえに、さまざまな形で支えてきてくださったお客様をはじめといたしまして、地域の皆様、お取引先各位のご指導、ご支援の賜物であり、厚く感謝申し上げます。

私たちの主戦場である自動車産業はEV化へ向け大きな変換点に差しかかっていますが、時代の変化に敏感に反応し、これからも地域の皆様に「来て良かったありがとう!!」と頂ける会社をめざし、社員一同、さらに努力を続けて参ります。引き続き、弊社に対し皆様のあたたかいご支援のほど宜しくお願いいたします。



自動車販売

ARAKAKI SEIJI

新垣 精二

社会奉仕委員会



3月のプログラム 3/12(水)ゲスト卓話 3/19(水)休会 3/26(水)→3/25(火)夜間例会

例会日 水曜日 12:30~13:30  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4  
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311  
TEL/FAX(0980)83-2917  
E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

◇総会員数：54名（正会員52名・名誉会員2名・出席免除会員2名）

◇出席義務会員数：50名 ◇出席人数：26名 欠席人数：24名 出席率：52.00%

《司会進行：黒島 勝・村松 秀規》

◇ロータリーソング：君が代 ロータリアンの行動規範

◇ゲ ス ト：宮城智一様（みやぎ米屋株 常務取締役）

◇ピ ジ タ ー：藤宮志津子（東京東大和 RC） ◇メ ー ク ア ッ プ：新賢次 仁開一夫

【第9回理事会】1) 3月・4月・5月プログラムについて：承認 2) 宮古島 RC との合同例会：持越し  
3) 各委員会活動計画の進捗状況について：確認 【報告事項】AI 機能アプリ（テープ起こし）について

■会長挨拶■  
宮城 早人



皆さんこんにちは。もう3月ですね。弥生ということになりま  
すけれども、早いものですね。このところの例会は休会もあ  
ったりして2週間ぶりに開催されるとも続いたりして何だか  
時間や月や季節の移り変わりがグイグイと動いている感じです。  
もうだいぶ春めいてきているのですが、寒の戻りも予想されて  
いるということもいわれておりますので、皆様体調にはどうかご  
留意ください。どうか元気にお過ごしくださいませ。今日は東  
大和クラブの藤宮志津子（ふじみやしずこ）様、お越しいただ  
きました。ありがとうございます。そして、宮城隆（みやぎたかし）  
様、宮城智一（みやぎともかず）様、今日は後程、たっぷりとお  
話いただこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。

先程、理事会が開催されて、今年度の残りのプログラムは  
先ほどの日程等伝えられましたけれども、皆様の鋭意ご協力、  
ご参加のほど、併せてよろしく願います。

それで、先ず今日の週報をご覧くださいますと、我々の大  
先輩、今日の卓話をされる、宮城米屋の宮城隆さんが載って  
おります。「笑顔のそばには、いつもご飯」という社の案内  
とともに宮城隆様のロータリーにおける経歴とか、若い頃から  
苦勞された話とかですね、現在の企業のこととかあるか書いて  
あります。皆さん、どうかご覧いただいて、特に若い会員の皆  
さんに、こういう大先輩が活躍されておられるということ知っ  
ていただきたいです。本当に素晴らしいですね。皆様どうぞ拍手  
を送りましょう。（拍手）。はい、ということで、私は今回の卓話が  
米（コメ）関することなのでちょっと、調べたのですが、日本人  
の主食の米、ところが、昨年南海トラフの地震の懸念から生  
ずる消費行動の異変により、いわゆる、「令和の米騒動」が起  
きました。米の流通について国民の関心が動いていますけれ  
ども、価格高騰の問題となっていたりして、政府では備蓄米放  
出について現在でも色々動いていて報道されています。それ  
で、今回、私は八重山における米について歴史を紐解きな  
がら考えてみたいと思うところがありご紹介します。ある文献に  
よると、ご存知の民族学者の柳田国男（やなぎたくにお）さん

が、かつて、大正8年(1919年)に沖縄、石垣まで渡って来た  
訳ですが、その際に稲と稲作、稲の思想とかが、石垣島にも  
すごくいいものがあって、日本の島々の社会を存立させている  
決定要因は米であるのではないかというふうに記述されてお  
ります。米というのは、もちろん最初は大陸から渡って、稲作が  
普及し始め、色々あったのですが、とりわけ自然、山、水、な  
どの資源が豊富な石垣島において栄えてきたということです。ま  
た、皆様ご存じの芸術家、岡本太郎（おかもとたろう）さんが、  
昭和34年(1959年)に石垣に来ておられて、その時に書か  
れた本の中に「人頭税」のことが書かれてあります。～人頭税  
が敷かれたことにより、15歳以上50歳まで米は過酷極まる搾  
取の対象となり、負担が八重山に重く押し付けられ、徹底的な  
収奪は冷淡無残だったらしく、一定の頭割り1人でも怠れば  
村全体の責任として迫害された。しかも、その上に布、織物、  
船の道具などはじめ48種類もの物納税を割り当てられたそう  
だ。ハッカオーデラー（二十日公事）といって、月のうち大部  
分は強制労働させられて、このような無理を強制せしめるため  
のあらゆる非道なシステム、それを中心とした悲劇は全く想像  
を超える。今でもその悲しみ、恨みがこの土地全体から呻き（う  
めき）声のように立ち上がっている。その気分、気配を皮膚で  
私は直（じか）に感じるとる思いがした。それはこの島の美しい哀  
切を極めた伝説にも、歌にも、踊りにもこの悲哀は滲（にじ）み  
出ている。全ての記憶はここから出発している。人頭税は八  
重山の暗い歴史の重みだ。しかし、此処（ここ）では、実態と  
しての琉球文化は無い。この“無さ加減”、ある人は人頭税のせ  
いだといい、また、ある人は明和年間の3分の1の人が死ん  
だ未曾有の大津波のせいだという、沖縄本島は戦争、此処（こ  
こ）石垣島は大津波、このアクシデントと文化、盲点を探りたい。  
～という風に1961年(昭和36年)に書かれた本の中にありま  
す。これを私は以前に読んで凄（すご）いなと思ってちょっとメモし  
ていたのですが、また、別の文献では、明治の廃藩置県  
後の沖縄県になった時の最初の知事が中央政府から任命さ  
れた時、その知事がまず沖縄県全体の各島々を渡り視察した  
末、沖縄県の主島（首都）ですね、すなわち県庁所在地は石  
垣島にしたいという意向があったそうです。理由としては、明  
治の富国強兵、殖産興業の国のスローガンの背景に、食料、  
米が豊富にとれる石垣島はとても魅力的であったということで、  
天災飢饉に遭っても、食料という米が豊富にあるということで、  
皮肉にも人頭税で鍛え上げられた石垣、八重山の米作りがタ

ーゲットにされたようです。それで、もし沖縄の県の主島(首都)が石垣島だったら、沖縄本島は離島ということになりますね。ということで、そのようなエピソード等もあって、米のことについて、石垣は昔からの米どころであったという、そういう歴史があるということを知っていただきたいということでお話しました。

さて、本日は、2005年～2006年の当クラブ会長の宮城隆様に、「石垣市のお米づくりの可能性」と題して卓話を行っていただきます。宮城隆パスト会長は当クラブへのご貢献も勿論のことですけれども、石垣市商工会長も歴任され、石垣市の産業経済のトップリーダーとして活躍されてきましたことは皆様の周知のことです。また、先程、私が触れました八重山の米の歴史の話はさておいて、八重山の米は八重山が誇る基幹産業です。その米作りをされて、現代の最先端技術を駆使したお米作りにチャレンジされ、息子さん、宮城智一さんのご尽力もあって、2023年には石垣市会社物産展等で最高賞受賞されるなど、今取り組んでいられるスマート農業について、八重山の米作りのリーディングカンパニーとしてご活躍中の宮城米屋さんの宮城隆パスト会長、智一さんに今日は貴重なお話を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では、今日も「親睦と友愛の絆で広げる奉仕」のスローガンのもと楽しんでいきたいと思います。宜しくお願いします。

#### ■ 幹事報告：新里 裕樹 ■

本日の幹事報告は5点です。本日は理事会がありましたので、その報告もさせていただきます。

- 1). 3月・4月・5月のプログラムについて: 3/25(火)に浦添RCとの合同例会、その翌日に八重山観光を予定しております。4/2(水)はオープン例会を開催して、新入会員の候補者、ロータリークラブに興味を持っている人、各会員からお声掛けをして頂いて、会員増強の目的でオープン例会を開催しようと思っております。ロータリークラブに係わって欲しい方がいらっしやいましたらお声掛けをお願い致します。
- 2). 台湾訪問の旅にて: 料金が調整段階ですので、判断しづらいところもありますが、大方20万円前後になるというお話もあるそうです。その目安で早めの判断をお願い致します。台湾クラブとの交流をはかる目的でもありますので、是非ご参加ください。
- 3) 宮古島RCとの交流例会ですが、今年度は石垣RCが宮古島へ行くという順番になっておりますので6月を予定しております。詳細は決まり次第ご案内させていただきます。
- 4). 会員でもあります垣本社長の毎日新聞社が創刊75周年を迎えたということです。その特集号の広告掲載依頼がございましたので、承認いたしました。
- 5). 地区大会について: 4/24(木)に本会議がございます。その後上野RCとの懇親会がございます。立川の本会議場近くの飲食店を上野RCさんが抑えてくださいますので、6時から9時半頃まで立川の方で合同懇親会を行った後に、都内の方で電車での帰るスケジュールを組んでくださるということです。ぜひ皆様、合同懇親会へのご参加も、地区大会参加され

る皆様、よろしくお願いいたします。

最後の報告になります。週報には、例会の内容を録音して文字起こしをして掲載していますが、今日からAI機能に頼って、働き方改革をしてみようというところもあり、今日の例会は、携帯のAIアプリを使って録音しつつ、文字起こしを試みようと思っております。ぜひ今日これからマイクを握られる方は聞き取りやすいようにご発言いただきますように、宜しくお願い致します。本日もどうぞ宜しくお願い致します

#### ◆ 会員・委員会からの報告 ◆

**新川正人職業奉仕委員長:** 手元に「台湾姉妹クラブ・友好クラブ訪問の旅」のご案内がございます。参加の表明を早めにして頂きたいということで、参加の可否とお名前、同伴者がいらっしやいましたら記入してください。費用はまだ決まっていません。人数が決まれば金額が決まるということと、石垣から台湾への直行便がこの日程と合わせられるかどうかという話もありまして、金額が決定されておられません。高雄から台東へ飛ぶ飛行機が80名乗りの飛行機でありますので、メンバーの予約を確保するためにも早めということで、第1回目の締め切りが早めとなっております。ぜひとも皆さんで二つのロータリークラブを訪問したいと思っておりますので宜しくお願い致します

**大本綾子会員増強委員長:** 私事で恐縮ではありますが、ご報告させていただきます。ジブラルタ生命の方でお仕事させて頂いていましたけれども、以前から声をかけて頂いていたライフプラザパートナーズという本社が東京にあり、営業所が久茂地にある会社の方に移籍しております。ライフプラザパートナーズという会社は、日本最大の代理店となっております。生命保険、傷害保険等、全ての保険を扱っている会社となっております。ミーティングや会社の集まりなどは久茂地の方で参加することになってはいますが、石垣では変わらず営業の方は続けておりますので今後とも宜しくお願い致します。

#### ◆ 会員卓話 ◆

**宮城 隆氏 (みやぎ米屋(株) 代表取締役)**

**宮城智一氏 (みやぎ米屋(株) 常務取締役)**

#### ◆ テーマ ◆

**石垣島のお米作りの可能性 ～スマート農業の導入と展望～**

**宮城隆氏:** 皆さんこんにちは。今日は、例会場に入ってくる時から緊張していますが、親睦の握手をしている時に、新しいメンバーの方が沢山いらっしやって、いかに不良会員になっていたんだろうと、大変申し訳ないなというふうに思いました。

私は米屋をして60数年になりますが、田んぼのことは分からなかったんですね。どこに田んぼがあるんだろうというぐらいの気持ちで、ただお米の販売だけをしてきました。しかしある日、農協さんから「宮城さん、石垣の米無くなりますよ」という話があってね、どうしてですか?と聞くと、もう高齢化が進んで作る人がいなくなる、宮城さん、自分でやったらどうだろうという話から、6次産業をしていかないといかないとということで始めたのが9年前になります。その時にちょうど息子が、IT関係の学校を出まして富士通にいました。今からこういう時代になるん

だろうなということで、私には出来ない、じゃあ息子と呼び戻そうということで呼び戻して現在になります。スマート農業がどんどん進んで、我々も今このスマート農業に関して徹底的に取り組んでいる最中でありまして。お話をするというのは苦手なものですから、スマート農業に関しては、息子を連れてきましたので、彼からいろいろと話をさせていただこうということになります。ひとつよろしく願いいたします。

**宮城智一氏:** 子供たちの前でお話をするのは慣れていますが、諸先輩方の前でお話しするのは苦手なので、お聞き苦しいところもあるかもしれませんが一生懸命話させていただきます。

「石垣島の米作りの可能性、スマート農業の導入と展望」というタイトルで、お時間をいただいております。お話ししていきたいと思っております。

「みやぎ米屋」登野城にある創業 60 年のお米屋さんになります。先ほど社長からもありましたように、約 9 年前から田んぼを始めた会社でございます。歴史としては、父は 2 代目でございます、1 代目は私のおじいちゃんになります。

60 年ほど前に、当時おじいちゃんは船会社の役員をしていたそうです。沖縄本島から石垣にお米やいろいろな物資を運んでいた会社だったそうですが、採算が合わないということで、お米部門は撤退するということに至ったそうです。

そこでおじいちゃんは、そうなる島の人たちがお米を食べられなくなり困るだろうということで、その会社を辞めて立ち上げたのが今の米屋になります。

先ほど親父の方からもありましたように、約 10 年前に、JA さんの方から、もう島の米がなくなるよ、20 年後はもう誰も作らなくなっているはずだと、なので宮城さん作らないかっていうのがきっかけでお米作りに入っていくことになります。

今やっけていて思うのは、お米作り、田んぼというものを守っていかうという事を最大限の使命として、じいちゃんからの想いを島の人たちにお米を届けるという思いで、今現在頑張っているところなんです。

皆さん、今一番気になるのが、お米の価格が安いことになっているところ、それについて少しだけお話をさせていただきます。

去年 2400 円、一昨年 2000 円を切っていたような段階から、急に今、4200 円を超えてきているような価格になっています。政府としては、ちょっと悪い人がいて、囲い込んでいるからこうなっているよっていう説明ではあります、我々現場の人間からすると、それも一部もちろんあるとは思いますが、そもそも、もう供給と需要のバランスが崩れていて、米を作ってくれる方が減っているというのが一番大きな原因だと思います。今、小売価格ってというのは、5 kg あたり 4000 円を超えました。私としてもちょっと高すぎると思っています。ただ、今まで 2000 円を切るような価格では、正直農家は続けられません。消費者の求める価格と農家が生き残れる価格ってというのはベストアンサー大体 3500 円ぐらいじゃないかと思っています。そこに落ちていければと思っています。

こういうふうにする方もいます。「今お米が上がっているから農

家は儲かっているでしょ！」 実はですね、去年お米を作っている農家さんの廃業というのは過去最高を更新しています。それだけ大変な状態、お米農家に関しては相当厳しい状況というのが言えます。

考えられる原因としては、やっぱり高齢化と担い手不足です。お米の価格は上昇しているんですが、それより経費の方が高いところがあると思います。それでどんどんこう辞めていく人がいるというのが現状です。米の供給不足というのが今の高騰の最大限の原因だと思います。それに加えて、肥料とか農機具、燃料、全て上昇しています。肥料も 40% 以上、農機具に 50% 以上の価格が上がっています。そんな中、米の価格はずっと上がってこなかったということです。

少し衝撃的な数字なんですけど、2010 年～2020 年にかけて、米農家は約 40% 減っています。

約 113 万戸あったのが 68 万戸になっています。そして米農家の平均年齢は 70 歳です。あと 10 年後 80 歳、若手の世代交代が起こらないとお米はほんとに危機的な状況ということです。なぜこうなったのかというのは、農家の所得補償は、実は前にはあったんですが、国の予算的にも助けられないという判断がされて、2018 年で打ち切りになっています。補助金はないけれども、皆さん頑張って販売まで自由にします。今まで減反とか言って、やるなと言ってきたんだけど、自由に頑張ってくださいっていうのはしごを外された状態です。

やっぱり担い手不足ですね。やはり米は儲からない。我々もやってみて、本当に儲からないです。儲からないし、後継者がいない、新規就農も入ってこない。

実際、我々は新規就農の補助金を取りましたが、その時もまず第一声に言われたのが、なんでやるの？と言われました。米なんて儲からないよ、とはっきり言われました。

現状、石垣市の方には、年間に 2 人ぐらい農業をやりたいという若手の人が来るそうですが、事情を説明すると、皆さん止めます、それだけハードルが高いということですね。

先ほど会長からもありましたように、琉球王朝時代の人頭税、その時の文献は残ってしまっていて、だいぶ長い間お米作りはされています。これは民謡にも歌われていて苦勞して、お米作りをして年貢を納めて、という形でやって続いてきた。簡単に歴史を振り返りますと、古代から、琉球王朝時代に大陸から稲作が伝わって、貴重な作物として作られてきました。

薩摩藩の支配下になった琉球王国では、人頭税ということで、米が年貢として徴収されるようになって、苦しみながら皆さんが米を作っていたということになります。

明治維新後、本土から新たな稲作技術が導入され、石垣島でも米の生産が徐々に拡大していったという経緯があります。

それで、戦後は米を作ろうというムーブメントがありまして、石垣島での稲作は進んできました。

ただ、大規模ではなくて、個人個人が少しずつ作るという状態でした。

1993 年、日本全国で大冷害に襲われて米が作れない、作れ

ないと次の種が取れないということで、岩手県がどうやら石垣島の温かいところで米を作っているということで、岩手県のお米を栽培してもらって、その種をまた岩手県に返してくれないかという要望があり、それから「かけはし交流」というのが始まりました。

それまで石垣島では主食のお米というのはあまり作ってなくて、台中六五号とか千代錦とか、どっちかというとお酒寄りのお米を作ってたので、石垣島でも高齢者の方からは、石垣島のお米は美味しくないというイメージがありました。この岩手県との交流ができたことをきっかけに「ひとめぼれ」というのが栽培されるようになっていきました。

そういう歴史がある中で、今どうなっているかという、作付けの面積は、もう10年間で20%ほど減少しています。取れる量というのが全国に比べて相当少ないです。全国が600kg取れるところが300kg、二期米を足して同じぐらいというような状況であります。要するに、利益率がとても低い。それで離農が加速度的に進んでいます。それと、農家は高齢化しているという状況です。担い手がないというような状況。

それと気候変動、石垣島においても、去年の二期作はとても収量が低かったです。台風が直撃はせずとも、強風が吹いてダメージが蓄積されて収量できなかったと思いますが、この島の気象条件にあった品種を選んでいくということも重要になってくるのかなと思っています。

では、スマート農業って何？

インターネットやAIを使った農業で、これによって自動化する作業を増やして効率化を図る。

収量予測だったり、そろそろ虫が出そうだよとか、病気が出そうだよというのをセンシングといういわゆる人工衛星から田んぼを見て予測するという技術です。ドローンとか自動運転の技術を使っていく、これによって省人化が図れます。

田んぼというのは水を張りますが、この水を張ること自体がまた環境に負荷を与えるメタンが発生するので、このメタンへの対策をいろいろな面で活用していっております。

うちに関して言うと、ドローンや農業AI、農業DXを使って収量や品質向上を目指しております。先ほど少し言いましたが、人工衛星から田んぼをずっと見ていまして、ここに異常があるとか、ここに肥料が足りてないという情報をモニタリングしています。それで機械と連動して、肥料や農薬をコントロールするという仕組みを導入しています。

可変施肥対応の田植え機やドローンを活用し、ムダを省きつつ自動航行することで作業コストが大幅に軽減、できるだけ抑えながら収量を上げていくというような取り組みになっています。

ドローンに関しても同じような仕組みで、自動走行、いわゆる私は見てるだけで、ドローンが勝手に仕事をしてくれます。

自動運転の映像を少しお見せします。(映像)

これが自動化技術になりまして、ちょうど今、弊社の田んぼでこの実証実験をしているところです。

少しスマート農業とは違いますが、マイコスという菌根菌を利

用した節水型の米作りを取り組んでおります。田んぼに水を張るとメタンが発生する解決のひとつとしてこれを利用しています。菌根菌なので、根っこを強くするような菌になります。それをまぶすことで根っこが凄く生えます。田んぼに水を張ってなくても水を探しに行くという菌です。

マイコス菌が毛細根と共存し、効率的に栄養と水分を吸収します。水管理が不要となり、水管理作業の大幅な省力化が可能となります。今回、我々もこれを使って節水型の田んぼを作っています。

今、田植えをするとコストがかかりますが、そのまま種を直接田んぼに撒けるようになります。そうすると、その育病にかかるコストというのがだいぶ減るということを期待しながら、我々はこれで生産性を上げていこうというところでございます。

他の国ではもうスマート農業っていうのは結構進んでいて、ベテランでは収量が10%から15%以上、近場の北海道では一定数の効果が出ているということがあるので、石垣島でもスマート農業はできるし、我々がそれを今実践しているところでございます。

ただ課題があります。まず、スマート農業に対応している機械というのは凄く高いです。

普通の田植エトラクターに比べると1.5倍で、先ほどの自動操舵をメーカーから買うと2倍、相当なお金がかかるというのも事実です。なので、やっぱり助成金の活用とかをしっかりとやっていくことで、購入費に当てというのが前提になってくるのかなと思います。

私は元々システムエンジニアだったので、スマート農業には入り込みやすかったし、ITに関しては問題なく導入できましたが難しいです。実際に機械が動くまでに持っていくのが相当大変です。ITに強い人材というのがスマート農業を進める上では必要になってくるかと思います。

【まとめ】石垣島の気候の条件はとても良いです。

1年に2回お米が取れます。先ほど収量が低いという話をしましたが、これって単純に「ひとめぼれ」が合っていないだけなんです。石垣島に。他の品種であればもっといい収量が取れるので、そういった強みを生かした農業ができると思います。今までの感に頼る、経験が生きて、これも勿論大事なんです。全てAIが教えてくれます。ということは経験がなくとも出来ます、という時代になっています。自動操舵を使えばこのオペレーションの技術もいらなくなります。というすごい時代には来ています。ただ、それを導入するためのハードルが高いというだけで、やればできます。これをすることで必ず道は切り開けるとは思います。やはりハードルというのがありますから、これは行政ともしっかり連携することも大事です。1人の力ではなかなか難しいかもしれないです。個人で買える額ではないので。じゃあ、どうするかという、農家さんが1人親方をやめて、数名で集まって買うとか、そういったことをうまく連携をしてスマート農業を導入できれば、絶対儲かる農業、稼げる農業になっていくと思います。以上です。ご清聴ありがとうございました。

～ 例会風景 ～



いつも美味しいお米を届けていただきありがとうございます。  
宮城隆パスト会長・宮城智一様 卓話ありがとうございました。

- 本日のニコニコ:** ★宮城早人会長:宮城隆パスト会長 智一さん 今日は素晴らしい卓話ありがとうございました。藤宮様 本日はありがとうございました。
- ★宮城隆氏:今日はありがとうございます。 ★上勢頭保氏:本日の宮城君のスマート農業 卓話に感謝。
- ★新里裕樹幹事:宮城隆さん 智一さん 今日は卓話ありがとうございました。藤宮PPもようこそ石垣RCへ
- ★木下省三氏:宮城様 大変楽しみにしております。いつもありがとうございます。

◆BOX¥5,000(累計¥252,600 円) ◆1,997(累計¥31,291) 合計¥283,891



大浜一郎氏 7日(金) 比嘉一史氏 7日(金)  
宮良幸男氏 13日(木) 大田次男氏 14日(金) 玉城一吉氏 14日(金)

